

『一心千里』

走っていていれば、 見えてくる

永田 隆一



第8回

18世紀の産業革命は

「石炭」が成長を引っ張りました。石炭を使った蒸気の応用から、蒸気機関車、コークス・鉄の精錬と。

さて、20世紀は、間違いなく「石油」の時代でした。別名、化石燃料。エネルギーはもちろんのこと、プラスチックも化学繊維も、アスファルトも、石油の恩恵であります。石油を中心にした第2次産業革命とも言われています。

そして、21世紀は、「新エネルギー」を中心とした第3次産業革命の時代です。「新エネルギー」と申しても、太陽光、風力、バイオマス、燃料電池と、マスコミを賑わすプレーヤーも多士済々であります。

を根幹で支える「リチウムイオン電池」は、重要

かつ日本のお家芸であります。

しかし、2000年、世界のリチウムイオン電池の90%以上を日本メー

ます。

《新技術とスピード》

日本が、様々な技術に優れている点は間違いございませぬ。しかし、新

しい技術を製品化・商業化するスピードが、あま

②市場の動向を肌で感じて、価値ある情報を経営陣にフィードバックする

という事業戦略における重責を負う営業・マーケティング部隊が、その職責を全うしていない。営業は3G、マーケティングは10ドルマーケティングと揶揄されることもある。3G(銀座、ゴルフ、ギフト)、10ドル(1000円)で購入した本や雑誌のデータを活用して、自ら情報収集が

の製造に切り替えざるを得ません。

韓国企業が頑張ると輸出をすると、韓国政府はよく頑張ると輸出に貢献したと、輸出総額の10%を輸出奨励金として企業へプレゼントいたします。

台湾政府は、台湾国内で起業して儲けた際、起業5年間は税金を全額免除いたします。

しかし、日本政府の新しい企業支援の政策

しますと「一寸先はパラダイス」であります。これは私のパートナー企業のS部長のキャッチ・コピーですが、前向きに社会現象を捉えた場合、現

代は大きなチャンスと考えられます。自社にない情報・技術・ビジネスモデルは、外部から調達することが重要ゆえ、オープンハートとオープンイノベーションが鍵です。

そして、企業と企業の間はパートナーシップスキームが効果的です。パートナーシップスキームの基本は3つ。

①自らのことは自ら判断できる形態

②実力と魅力のない企業はスキームには入れない

③自ら胸襟をひらくオープンハートが基本

「月やあらぬ 春や昔の春ならぬ……」。1200年前に在原業平が詠んでいます。月はもう昔の月ではない、春も昔の春ではないと。そして下の句は、「我が身ひとつはもとの身にして(自分だけが昔のまま)」と。(毎月連載)

やむにやまれぬ大和魂

新エネルギー革命戦略

カーが握っていました。08年は日本企業の占有率が50%を下回ったようです。トップ10企業に

韓国のサムスンSDIとLG化学2社が、中国のBAKとATLの2社がランクイン。特に、サムスンSDIは、ソニー、パナソニック、日立マクセルをこぼろ抜きして、トップの三洋GSを2位の位置から猛追しており

りにも遅いとの指摘が多くなされております。

それは何故か。やむにやまれぬ大和魂と詠んだ、吉田松陰さんなら、こう言ったでしょう。

①企業において、社内で冠婚葬祭を手際よく仕切る、先輩から可愛がられる、サラリーマン社長

・重役が多くなり、リスク・テイクできなくなっ

③強烈な情熱を持ち、個性的な技術に着眼している、多くの可能性を秘めたベンチャー企業へ資金・リスクマネーが回ってこない。

《国家の支援策の対比》
日本から中国へ材料や製品を輸出すると、関税と増徴税でトータル40%かかります。ゆえに、日本企業は、中国国内で

は、見当たりませぬ。韓国・中国・台湾・インド・ベトナムでの起業

は、日本よりはるかに楽です。具体的支援策も充実しております。さらに、たとえ失敗しても、再チャレンジを許容するおらかな雰囲気があります。